

IV. 「仙臺城址」設立後(撮影時期:昭和10年以降)



内川市墓仙 門手大城臺仙 寶國



現在の「仙臺城址」碑

昭和10年(1935)は、伊達政宗没後三百年の年にあたります。それを契機に、大手門の前面に「仙臺城址」碑が建てられました。この碑は大手門の焼失後に移設され、現在は大手門脇櫓の北東にその姿を確認できます。

V. 大手門脇櫓の姿(昭和期)



仙台市博物館蔵

大手門や大手門脇櫓では、明治時代の大規模な修繕以降も細かな修理が行われていたと考えられています。写真Vでは脇櫓の瓦の一部が崩落していることが確認できます。また、写真VIでも漆喰の一部に剥落があり、軒先の瓦にも歪みが見られます。

昭和11年(1936)の金華山沖地震^{きんかさん}によって、大手門と脇櫓に損傷があり、昭和13年(1938)には脇櫓の修復工事が行われたとの記録があります。写真に見られる損傷は、そうした災害が原因となった可能性も考えられます。

写真VIの大手門脇櫓右手側に写っている構造物は、昭和8年(1933)に建築された「満州事変戦没軍馬之碑」です。大手門焼失後に移設され、現在は長沼の北側にあります。

VI. 大手門脇櫓背面の様子 (撮影時期:昭和8年(1933)以降)



仙台市博物館所蔵



現在の「満州事変戦没軍馬之碑」

発掘調査で見つかった大手門の痕跡

大手門の位置の確定と、大手門と大手門脇櫓の周辺状況を確認するために、令和5年度から発掘調査を実施しています。調査の結果、大手門の柱の痕跡（礎石跡）と大手門・大手門脇櫓の周囲を巡っていたと考えられる雨落ち溝（石組側溝）が見つかり、大手門と脇櫓の原位置の推定につながる重要な成果が得られました。

●大手門の柱の痕跡（礎石跡）



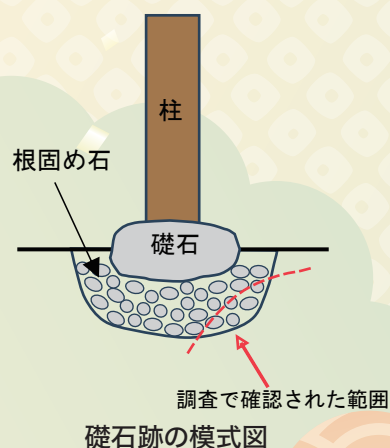
直線に並ぶ礎石跡の状況（北西から）



礎石跡の断面（北から）

これまでの調査で、柱の痕跡である礎石跡は4箇所（①～④）で確認されました。この4箇所は1直線状に並び、大手門の南壁の柱列にあたるものと考えられます。

柱がのる礎石は確認されず、円礫で構成される根固め石のみが確認されました。根固め石は礎石が沈下しないよう、礎石の周囲に詰められる石です。いずれの礎石跡も大手門焼失後に埋設管の設置等によって、大きく削られてしまっており、一部分のみが残存していることがわかりました。



●大手門・大手門脇櫓の周囲をめぐる雨落ち溝（石組側溝）

脇櫓の周辺では、石材を組んで作られた側溝が確認されました。屋根から落ちる雨水を受けるための雨落ち溝（石組側溝）と考えられます。

雨落ち溝は屋根の先端に沿って設置されており、屋根の形に合わせてクランク状に巡っている様子が確認されました。溝に堆積した土の中からは、空襲による焼土や赤く変色した瓦が多く出土しました。

雨落ち溝が脇櫓の西から南にかけて広い範囲で確認されたことで、脇櫓の屋根の範囲を推定する材料が得られ、建物の形を推定する上で重要な情報が得られました。



雨落ち溝の構造

石組みを側面とし、石の上面は平坦に加工されています。底面には円礫が敷かれています。

・ 55.3

大手門北側土塀



礎石跡と対応する柱 (仙台市教育委員会:1967)

54.4

大手門

正面

礎石跡④
礎石跡③
礎石跡②

礎石跡①

雨落ち溝

大手門脇櫓
(再建)

0 4m

・ 55.8



脇櫓南側の雨落ち溝の輪郭(南西から)
大手門焼失後に壊されている部分もあるものの、
広い範囲で残っていることが確認されました。

大手門推定位置図(S=1/200)
(小倉 1930の実測図のトレースを合成)

発掘調査で出土した瓦



三引両文



三引両文

昭和5年(1930)の仙臺高等工業学校による実測調査の資料には瓦について、「丸瓦當には九曜紋様が多く稀に巴と三引兩紋様くようもんが混じてゐる。平瓦當も大體唐草付である」と記載されています。

発掘調査でも数多くの瓦が出土し、そうした記述にみられる文様も実際に確認されました。それぞれの文様の中でも凹凸の付き方に違いがあり、修復を繰り返す中で多様な瓦が付け加えられたことを反映していると考えられます。



九曜文



九曜文



珠文三巴文



雪持ち笹文



江戸式

(実物大の約1/5)

●屋根を飾っていた鬼瓦

鬼瓦おにがわらは屋根の端などに設置される瓦で、鬼面などの装飾が施されるのが特徴です。発掘調査では、鬼の顔の部分が良く残存している鬼瓦が出土しました。古写真でも多くの鬼瓦の姿を確認でき、様々な装飾の鬼瓦が屋根を飾っていたことがわかります。

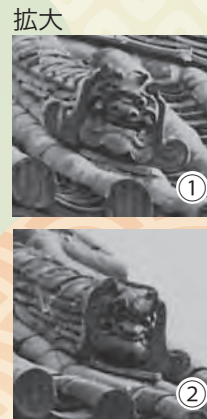


発掘調査で出土した鬼瓦(実物の約1/8)



仙台市博物館蔵

古写真に残る大手門脇櫓の鬼瓦の様子



●遺物から見る仙台空襲の痕跡

発掘調査で出土した瓦の中には、本来灰色の瓦が赤く変わったものが確認され、それらは熱で変色したと考えられます。ほかにも建物の土壁が赤く変色したくうしゅうものも見付き、仙台空襲による火災の大きさを窺わせます。



崩落して割れた後の熱の受け方の違いで、変色の度合いが異なっているとみられます。

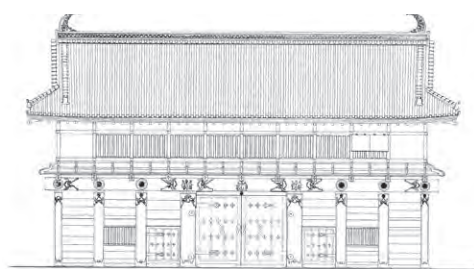
調査や修復の記録

大手門と大手門脇櫓は、明治23年(1890)に陸軍第二師団(仙台城跡に駐屯^{ちゅうとん})によって大規模な修繕工事が行われています。その際の工事の概要は「竣工録^{しゅんこうろく}」に記され、修復箇所に使用された部材やその寸法、装飾の様子などが記録されており、修復以前の大手門の姿を知る上で重要な文献です。

さらに、昭和5年(1930)には仙臺高等工業学校の小倉強氏^{おぐらつよし}により実測調査が実施され、焼失前の大手門の姿が詳細に記録されています。門に使用されている木材や礎石の材質、金具の種類なども記述されています。

こうした詳細な図面や記録は、発掘調査でみつかった痕跡や遺物について考える上で重要な資料となるとともに、復元を目指すうえでも貴重な資料となります。

大手門の実測図



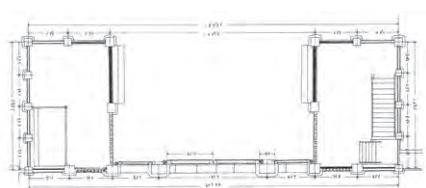
正面実測図



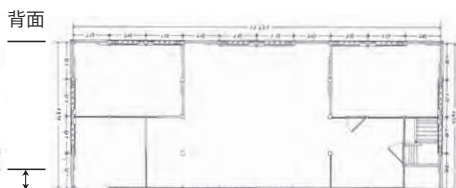
側面実測図



背面実測図



一階平面実測図



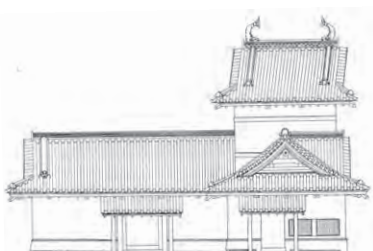
二階平面実測図

2階の梁間は26尺あって約3尺7寸(約140cm)程前面に張り出し、柱の間隔も1階と異なっています。

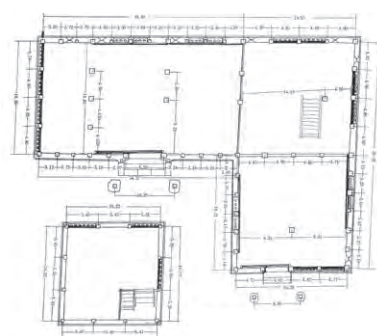
大手門脇櫓の実測図



西面実測図



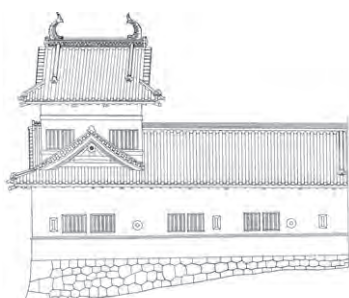
南面実測図



平面実測図



東面実測図



北面実測図

大手門脇櫓は石垣の上につくられており、その石垣は現存しています。建物の隅の角度は、すべて直角とはなっておらず、鋭角になっている箇所も認められます。

※昭和5年の実測図について、大手門は『旧仙台城大手門復原考—旧仙台城大手門基本設計と調査資料—』(仙台商工会議所・仙台城大手門復原準備会 1994)、脇櫓は『仙台城』(仙台市教育委員会 1967)に再掲された図を縮尺約1/400で掲載しました。

仙台城・大手門関連年表(近代以降)

明治 2 年 (1869)	版籍奉還に伴い二の丸に勤政庁設置
明治 4 年 (1871)	東北鎮台(後の仙台鎮台)を二の丸に移す
明治 15 年 (1882)	二の丸御殿が火災のため焼失
明治 21 年 (1888)	仙台鎮台から第二師団へ改称
明治 23 年 (1890)	陸軍により大手門及び大手門脇櫓の修理が行われる
明治 25 年 (1892)	大橋(鉄橋)竣工 それに伴い大手門前の道路が直線化する
大正 14 年 (1925)	第二師団から大手門等を借地 青葉山公園となり大手門の出入りが自由になる
昭和 5 年 (1930)	仙臺高等工業学校による大手門実測
昭和 6 年 (1931)	大手門、大手門脇櫓が国宝に指定
昭和 8 年 (1933)	脇櫓南側に「満州事変戦没軍馬之碑」建立される
昭和 10 年 (1935)	伊達政宗公三百年祭 大手門前面に「仙臺城址」碑が建立される
昭和 11 年 (1936)	金華山沖地震
昭和 13 年 (1938)	大手門脇櫓の修理が行われる
昭和 20 年 (1945)	仙台空襲で大手門、大手門脇櫓が焼失 二の丸に米軍キャンプ(キャンプセンダイ)建設
昭和 32 年 (1957)	進駐軍から二の丸一帯返還
昭和 38 年 (1963)	大手門脇櫓再建着工
昭和 42 年 (1967)	再建大手門脇櫓が仙台市に寄付される
昭和 53 年 (1978)	宮城県沖地震 大手門北側土堀：壁面の損傷、瓦のずれ、落下 瓦の修理工事を行う
昭和 62 年 (1987)	再建された脇櫓にライトアップのための施設が寄付される(東北電力株より)
平成 23 年 (2011)	東日本大震災により大手門北側土堀の西側約8mが崩落し、その他の部分でも外壁に亀裂が生じた 平成25年に修復終了
令和 4 年 (2022)	福島県沖地震により大手門北側土堀の外壁の亀裂や剥離が生じた 令和6年に修復終了

<引用文献>

小倉強 1930『仙台城の建築』

仙臺郷土研究會 1936『仙臺郷土研究』6-12

仙台市教育委員会 1967『仙台城』

仙台市教育委員会 2024『仙台城跡18—令和5年度 調査報告書—』

仙台市史編さん委員会 2001『仙台市史 通史編3 近世1』

仙台市史編さん委員会 2004『仙台市史 通史編5 近世3』

仙台市史編さん委員会 2008『仙台市史 通史編6 近代1』

仙台市史編さん委員会 2009『仙台市史 通史編7 近代2』

仙台市史編さん委員会 2006『仙台市史 特別編7 城館』

仙台商工会議所・仙台城大手門復原準備会 1994『旧仙台城大手門復原考—旧仙台城大手門基本設計と調査資料—』

仙台商工会議所・仙台城復元委員会 1998『仙台城復元基本計画』

仙台市経済局商工部観光課 1983『旧仙台城大手門研究調査資料』

高田徹編 2008『城郭と絵葉書—戦前絵葉書資料化の試み—』

※本文中に掲載した資料の内、引用や所蔵の記載がないものについては仙台市文化財課が所蔵する資料です

文化財パンフレット 第84集

【編集】仙台市教育委員会 生涯学習部 文化財課 仙台城史跡調査室
〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉1丁目5番12号 上杉分庁舎
TEL 022-214-8544 / FAX 022-214-8399

【発行日】令和7年3月31日 【印刷】株式会社仙台紙工印刷

文化財課HP

